

第 6 分科会		研修俯瞰図番号 E 4 ・ E 5	
テーマ	ネイチャーゲームで子どもと楽しむ自然体験活動		
会場	岡山県総合グラウンド	講師	藤本光世先生 (岡山県シェアリングネイチャー協会理事長・トレーナー)他2名
ねらい	「生き物への愛情を育む」「生き物について関心をもつ」「自然界の形や模様のおもしろさに気付く」「命の大切さを考える」など直接的なものに加え、「楽しい雰囲気をつくる」「仲間と協力し合う」「チームワークを育てる」といった人との関わり方も学べるネイチャーゲームを習得し日々の保育に活かす。		
日程	8 : 30	岡山市営 駅南駐車場	集合
	8 : 40	駐車場発	
	9 : 00～11 : 40	ネイチャーゲーム体験	
	12 : 20	岡山駅西口	着 解散

《内容》

● 雨の為室内で体験

・ カモフラージュ

周りに同化する色になったり（保護色）、色や形を周囲の他の物に似せたり（擬態）して、カモフラージュしている生き物が身近なところにいることに気付き、敵から身を守ったり、獲物を捕らえるための、生き物の生存のための知恵を考える。



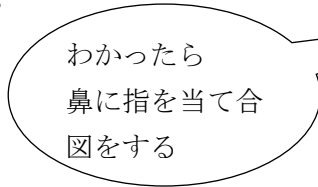
自然の中に置かれた人工物を探す活動だが、今回は雨ということで 館内の廊下・階段にアイスの棒（木）を隠し探す活動を行う。隠すのではなく見えるように置いてあったが見る角度・方向・色などにより見つけにくかったり、見つけやすかったりした。

また 見つけた時の喜び、見つけられない時の悔しさ等様々な感情と共に体験することができた。



・ ノーズ

ある生き物のヒントからその生き物を推測し特徴や生態について興味や関心をもつ。



- ・ コウモリとガ

コウモリとガの食う食われるの関係を実際にコウモリ役とガの役に分かれ体験する。

(コウモリ役はバンダナで目隠しをする)

- ・ 天敵と獲物

自然界の天敵と獲物の関係を体験する。(捕まえる方、逃げる方どちらも目隠しをする)

自然界の中には 食う (天敵) 食われる (獲物) の関係が存在し、動物たちは敵に襲われないように常に感覚をとぎすまし、周囲に気を配りながら生活していることに気付く活動。

お互い動物になりきり、気配を探り合い追いかけ合いをし、緊迫感とそれぞれの気持ちを体験した。



<コウモリとガ>



<天敵と獲物>

- 一時雨が上がり野外で体験

- ・ フィールドパターン

自然界にある色々な形や模様を探す。

○ □ △ ♥ W X Y 等の模様が書いてあるカードを持ち その形に似ている物をグループで探しに行く。その際虫眼鏡を使い 肉眼では見えないようなミクロの世界を覗き、小さな発見をグループの人と分かち合う。自分だけではなく発見を伝えること、共感することを大事にする。



<フィールドパターン>

<フィールドパターン>



この虫の模様ってハートの形だよ。

- **目かくし歩き**

ペアになり目隠しをした相手を案内する。

人間は、視覚から情報を得て判断することが最も多いといわれています。この活動で目隠しをすることにより、普段は意識しない感覚がめざめて自然を感じ取ろうとします。それまでに気がつかなかった自然の音や匂いに気づき、温度や匂い、肌触りなどに敏感になり新鮮な感覚を体験できた。



- **室内で講義**

- もしも地球が・・・という絵本の読み聞かせを通し命の大切さを考える。

- ネイチャーゲームとは何かについて話を聞く。

ネイチャーゲームとは 「見る」「聞く」「触る」「嗅ぐ」 など私たち一人一人が持っている感覚を使って自然を楽しむことで自然への親しみを育む。

ネイチャーゲームには160種類以上の活動があり、四季折々に子どもと大人と一緒に、また1人でも自然と触れ合うことができる。

《シェアリングネイチャーの自然と人、人と人をつなげる考え方》

- ・ 自然や他者への共感や思いやりが生まれる
- ・ 自然や環境への理解が深まる
- ・ 自然の美しさや面白さ不思議さなどを発見できる
- ・ いのちを大切にする心が生まれる

活動を通じて上記のようなことが育まれていく。

- 質問を受けながら、園でアレンジして出来る活動や工夫していることなどについて意見交換をし、最後に**動物絵合わせパズル・私はだれでしょう**（背中につけられた生き物カードを周囲の人に質問しながら当てる）のゲームを最後に行う。



<動物絵合わせパズル>



<私はだれでしょう>

《まとめ》

野外での活動を予定していたが開始前より雷を伴う雨ということで前半は室内の活動を行う。雨が降ったことで、野外ではなく室内でどのように自然を楽しむか、どのような活動ができるかを学ぶことが出来、年齢や場所に応じたアレンジの仕方も学んだ。

また雨があがった一瞬をねらって野外でも活動が出来たが、雨あがりの空気、匂い、心地よさ、草木に雨粒がたまりいつもとは違った発見や気づきが出来るということを体験を通して感じる事が出来た。活動途中に小雨が降ってきたが、濡れることも気にならないくらい自然に入り込み楽しむ参加者の姿が見られた。

子ども達と活動をする際に、子ども達に知識を教えることより、感じたこと、発見したこと、不思議に思ったことを共に分かち合い、発見する喜び、試す・確かめるなどの体験を大事にしていくことが好奇心や探究心を育てていく。

楽しさは学ぶ力、原動力になるので、保育者自身が楽しいと感じ、子ども達の「面白かった！」「またやりたいな！」という気持ちが引き出せるような保育者になりたいと感じた分科会であった。



《担当園・記入者》

明星幼稚園 柳 純恵